

第 1 回協議会での委員からの意見 — 議事録・協議会時記載のボード・メモ用紙から —

<p>【各区事務局会議・連絡調整会議】</p> <p>◆各区事務局会議・連絡調整会議に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none">・全市で取り組むべき内容を各区の会議体で過度に検討している印象がある。・類似事例が過去にも報告されているのではないか。今までの課題を整理する必要がある。・事例→問題点→原因→課題へのアセスメントのために、事例を集める。（ざっくばらんに話しましょうと周知。一方で人数の多さから言いにくさもある）・解決できなかった事例を共有し、事務局会議で多職種連携ができればよいが、限られた時間の中で、情報量が少なく検討が困難。・取り組む課題を作るための事例検討では本末転倒。ケースの解決よりも事例の共有、類似事例の発見、解決のアイデア、地域資源の発掘、支援者間の共感、ネットワークの強化を目指したい。・市全体のサービス事業所が、サービス利用時のみではなく、生活にも目を向けた支援を行い、柔軟に会議に参加できるようにする。・計画相談が障害者支援推進課で指定を受ける際、年間 1 回は会議に参加することを条件にしてはどうか。	<p>◆事例抽出の合理化・効率化に向けた提案</p> <ul style="list-style-type: none">・会議の機能をシンプルにし、協議会に事例報告等を集約する形に変更してはどうか。・事例のテーマを決めることで出席しやすくなる。小グループ（グループワーク）の方が意見は出やすい。・DX や AI の活用（Google スプレッドシートなどで共有し、生成 AI で分析。Canva の活用もよいかも） <p>①個別課題→地域課題の発見</p> <ul style="list-style-type: none">・事例の積み上げ→②個別検討→教育的役割（相談員のスキルアップ、解決力向上、ネットワーク） <p>≪駿河区の効果的な取組（R6）≫</p> <p>① グループワークで困り事の抽出・共有を図った→② 2 月に 1 回のペースで事例検討を実施→③①をもとに、関連した事例を募る→④事例に関連した勉強会等を企画・開催（共有）→⑤グループワークにて事例検討、グループ分けの工夫→⑥事例検討後の情報共有→⑦解決困難な課題があれば地域課題としてさらに検討</p>
---	---

<p>【地域移行支援部会】</p> <p>◆部会・取組に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none">・人手不足かつ業務量が増加している中で月 1 回の WG は、支援機関にとつて負担が大きい。・ステップアップする余裕がなく、次の段階に進むチャレンジができていない。・高齢分野との連携では、勉強会が目的になっており、マンネリ化している。・部会の取組として勉強会の定例化は困難だと感じている。・地域生活支援部会と課題、メンバーが重なり、負担感がある。―① <p>◆部会・取組の合理化・効率化に向けた提案</p> <ul style="list-style-type: none">・地域移行支援部会・地域生活支援部会の統合を検討することで、取組の重複を解消し、効率化できる可能性があるのではないか。―②・高齢分野との連携では、今ある資源（会議）の利用を検討してはどうか。
--

<p>【地域生活支援部会】</p> <p>◆部会・取組に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none">・課題が上がらず、まいむ・まいむの報告 + α程度になっている。・部会内で意見が出にくく、静かな時間が続くことが多い。・移動支援（身体障害者）の対象者拡大について、再度課題として見直す必要がある。・他の部会に当てはまらない課題を話し合うため、話題が多岐にわたり、効率化が難しい。・地域移行支援部会 ①に同じ <p>◆部会・取組の合理化・効率化に向けた提案</p> <ul style="list-style-type: none">・地域移行支援部会 ②に同じ
--

<p>【相談支援部会】</p> <p>◆部会・取組に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none">・座談会の満足度が高い。意見を共有し、相談員が自主的、主体的に今後の静岡市の相談体制を考えてはどうか。・事務局、運営の負担が一部の機関に集中している。（無関心や誰かがやってくれるという意識が課題）・計画相談の新規事業所立ち上げを支援する必要がある。 <p>◆部会・取組の合理化・効率化に向けた提案</p> <ul style="list-style-type: none">・任意で参加するオブザーバーを増やし、巻き込むための工夫が必要。・参加しやすい雰囲気作り、スケジュールの設定、参加のメリットを感じられるような工夫が必要。参加者同士のネットワーク形成や自主的な課題解決の意識が何よりも効率化に繋がる

<p>【就労支援部会】</p> <p>◆部会・取組に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none">・市の把握している課題を（モデル事業等は企画段階から）情報提供し、「オール静岡」の体制で障害者雇用の推進体制をつくるための意識が必要。・労働分野（民間企業）と福祉分野のギャップ・両分野の関りがない。 →障害福祉企画課のアセスメント事業の促進・活用をしてはどうか。・「就フェス」：参加者が企業に応募できるチャンスがあれば、より有効なイベントになる。A 型・B 型事業所（特に B 型）と企業が連携できる機会を提供し、障害者の一般就労に繋げる工夫をしてはどうか。 <p>◆部会・取組の合理化・効率化に向けた提案</p> <ul style="list-style-type: none">・特になし

<p>【子ども部会】</p> <p>◆部会・取組に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none">・全部会員が議題を理解し、発言できるよう、事務局で提案内容を検討し、提示する必要がある。・様々なところで早期対応と言われているが、人が少ない中でどう人材を確保し、育成していくかが課題。・好困難事例について、持ち寄った情報の共有や検討の過程で、学校や個人が特定されないように示すのが難しい。・誰にでも伝わるフローチャートや資料作りがとても勉強になった。 <p>◆部会・取組の合理化・効率化に向けた提案</p> <ul style="list-style-type: none">・特になし

<p>【権利擁護・虐待防止部会】</p> <p>◆部会・取組に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none">・年 1 回の研修では、全ての職員に内容を浸透させるのは困難だが、取組の継続は難しい。研修会での学びを事業所内でどのように共有するかが重要。・福祉分野では職員の出入りが多く、未経験の職員もいるため、虐待防止の知識や基本的な考え方を定着させる取組が必要。 →事業所等で行う新規職員向けの初期研修に、虐待案件の簡単な内容や調査すべき事項を盛り込むことが必要ではないか。 <p>◆部会・取組の合理化・効率化に向けた提案</p> <ul style="list-style-type: none">・市のホームページから自立支援協議会の成果物にリンクできるようにする等、役立つ情報を簡単に見つけられるように整えてはどうか。
